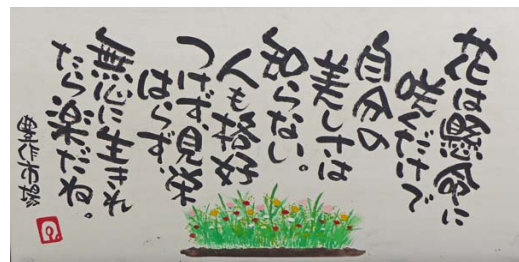
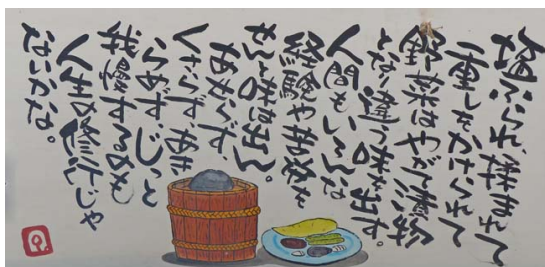
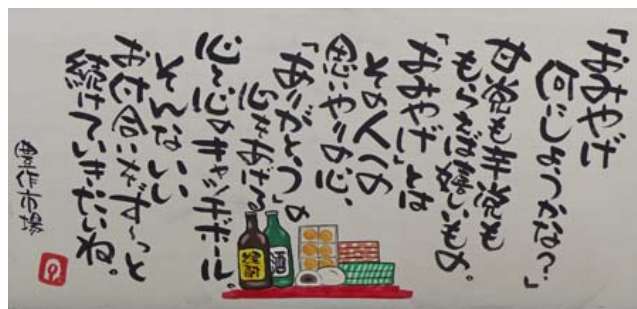


4342 ママチャリ日本縦断の旅：県境市場の名文句② 99

お口直しに、お魚の画像記録。そして、最後にトイレのうんちく。
道草もいい加減にと思うものの、京都の寺社仏閣のこうした文句が好きなんです。

カットスイカ、カットパイナップル、100円。マンゴー、150円。

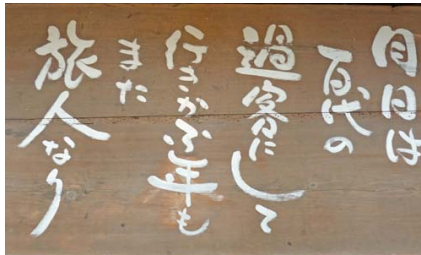
知らないことを知って、その上、果物。得をしたような気持ちになった。



腹の足し、体の足し、心の足し。いい時間をもたせてもらった。

県境では、工事中や、ママチャリ道はなくなる。気持ちを切り替えて、危険回避に集中。

山間だが、交通量は多い方。今に集中、先に進んだ。



トイレは聖所

便所といえば「汚い・暗い・臭い」というイメージが付きまとい、タフー視されて、言い方も古くは「御不浄」「はばかり」などと、一種の隠語や忌み言葉として用いられてきました。

しかし一方で、私たちの遠い祖先は便所にも神や仏が宿ると考え、その思想は今でも各地に風習として残っています。たとえば飛騨では便所に花を供え灯明をあげます。沖繩の石垣島では病人が出た時、廁神に線香・花・米・酒を供えて祈願します。奈良では便所の神様は最も位の高い神として尊崇されています。

もし、この世から便所がなくなったらどんなに困った事態が起こるかに思いを馳せれば「便所の尊さとありがたさ」に自然に頭が下がります。

『お通じ』を催した時は、我慢したりせずに、すぐ行くのが健康の秘訣です。そしてトイレは大自然のはからいによつて「生かされている」生命の神秘を思い知る聖所ともいえます。汚さないよう細心の注意を払い、きれいに後始末をして常に「入る前よりもきれいに」を心がけたいものです。